

PRESS RELEASE (2024/10/24)

～廃プラスチックの循環スキーム構築加速を目指す～ 株式会社エコポート九州との連携協定を締結

2024年10月23日（水）、九州大学グリーンテクノロジー研究教育センターは、株式会社レゾナック、丸紅株式会社、三井住友信託銀行株式会社とともに、株式会社エコポート九州との連携協定を締結しました。同社は九州最大級のリサイクル拠点であり、この協定締結により、廃プラスチックを適切に分別し、資源として活用する新しいケミカルリサイクルプロセスの構築と早期社会実装を目指します。

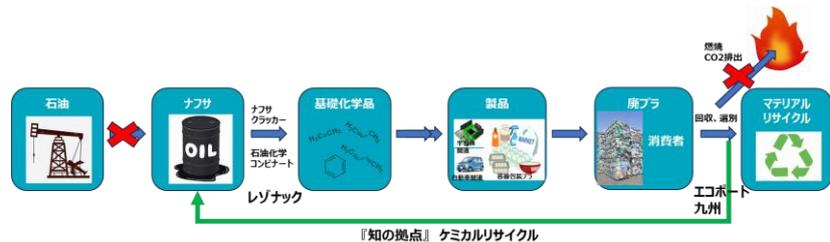
廃プラスチックの資源化には高度分別が必要

九州大学グリーンテクノロジー研究教育センターは、2024年1月9日（火）に株式会社レゾナック、丸紅株式会社、三井住友信託銀行株式会社とともに、資源循環型社会九州モデル構築のための共同事業体として「知の拠点」を形成しました。「知の拠点」は九州地域において、産業界や自治体から排出される様々な廃棄物や未利用資源を活用する九州地区初の地産地消型プロセス確立を目指しています。このためには、雑多な廃プラスチックを適切に分別する技術が不可欠です。適切に分別することが可能になれば、ケミカルリサイクルとマテリアルリサイクルのベストミックスにより、リサイクルを最適化することが可能になります。

この度、九州地域で排出される廃プラスチックを対象としたケミカルリサイクルプロセスを活用した循環スキーム構築の加速を狙い、「知の拠点」は九州地域で容器包装リサイクルプラスチックの材料リサイクルを主導する株式会社エコポート九州と連携協定を締結しました。同社は廃プラスチックを分別する高度な技術を有しています。この連携により、「知の拠点」が目指すケミカルリサイクルの九州地域への社会実装が加速します。

九州地域でのケミカルプロセスの展開

「知の拠点」では、まず廃プラスチックの有機成分を熱分解・油化し、株式会社レゾナックが保有する石油化学プラントに投入し、基礎化学製品に変換するプロセスを構築します。株式会社エコポート九州との連携により、九州地域から回収した廃プラスチックを高度選別して効率良く資源化することが可能となります。九州地区から排出された廃プラスチックを九州圏内で基礎化学製品に変換する地産地消型プロセスを確立し、「ゼロカーボン」「環境保全」と「経済循環」を両立させる資源循環社会九州モデルの社会実装を目指します。



廃プラスチックを基礎化学製品に変換することで、石油代替資源として活用し、プラスチックに戻すことが可能



九州一円から集められた廃プラスチックを高度に分別することで効率良く石油代替資源に変換可能。